

令和7年12月3日
(2025年)

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田第二小学校
校長 内田 祐子

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

Ⅰ 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

本校児童の平均正答率は全国平均よりやや下回る傾向でした。「知識・技能」にかかわる領域の正答率が全国平均値をやや上回る一方で、「思考・判断・表現」の領域においては、全国値をやや下回っていました。記述式の問題において、正答率が下がり、無回答率が高くなることから見て、長文を読み進めることに課題があると考えられます。

言葉の特徴や使い方に関する事項

・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題は、全国値を上回っている。

情報の扱い方に関する事項

・「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題は、全国値を下回っています。

我が国の言語文化に関する事項

・「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができるかどうかをみる」問題は、全国値をやや上回っています。

話すこと・聞くこと

- ・「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる」「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」ことをみる問題は、全国値をやや下回っています。

書くこと

- ・「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注目したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる」問題は全国値を下回っています。

読むこと

- ・「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうか」をみる」問題は全国値を上回っています。
- ・「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる」問題は、全国値を下回っています。

●国語科における成果と今後の改善点について

- 授業の中で、互いの考えを比べたり、友だちの意見を参考に自分の考えをまとめたりする主体的・対話的な深い学びを意識し、交流を大切にする授業づくりをめざします。
- 図書館や学級文庫などの読書環境の維持・改善を図り、長い文章（物語や説明文）を読む機会を増やすことで語彙を増やし、自力で文章を読み解く力をつけていきます。
- 長い文章を読み取って設問に答えることが苦手な児童が多いことから、日々の授業の中で、しっかり読み、問題に取り組んでいく基礎的な学習も継続して取り組んでいきます。
- 子どもたちが主体的に取り組む活動を計画的に取り入れ、自力で文章を読み解く力をつけていくとともに、得た知識を活用して発信していく力を育てていきます。
- ・週末の宿題で作文の課題を出す際、条件に合わせて書くことに慣れさせる。
- ・漢字、言葉の意味など分からないことをすぐに調べる習慣を継続して取り組む。
- 接続詞や助詞を使って文章を書くことを意識しながら、取り組んでいきます。

●算数《概要》

本校児童の平均正答率は全国平均値をやや上回る結果でした。しかし、「図形」領域で、全国値と比べてやや下回っています。全体的に知識・技能面については、これまでの学校で取り組んできた基礎的な取組みの成果が出ていると考えられます。、思考・判断・表現力については、全国値と比べてやや上回っておりますが、全国と同様に、正答率が低く課題が見られます。特に何を求められているのか算数的な読解力に苦手意識が見られます。また、じっくり考えて記述して答える設問についても同様の傾向が見られました。

数と計算

- ・「棒グラフから、項目間の関係を読み取るができるかどうかをみる」問題において、

上回っています。

図形

- ・「角の大きさについて理解しているかどうかをみる」「基本図形に分析することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題で、全国値と比べて、下回っています。その他は全国値とほぼ同じでしたが、全体的に課題が見られました。

変化と関係 測定

- ・「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では、全国値と比べて、上回っています。後半に設定され、記述式で答える問題でしたが、日常に則した問題だったためか、無回答率も低かったです。

データの活用

- ・「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる」「簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる」問題は、全国値と比べて、上回っています。
- ・「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題では、全国値と比べて、下回っています。
- ・問題は前半に設定されていましたが、無回答率も高く、情報量の多い問題や条件を整理して解くことに課題がみられました。

●算数科における成果と今後の改善点について

- 基礎基本の定着に引き続き取り組みます。朝の学習時間を使い、プリントなどで反復学習を行っていきませんが、計算に苦手意識の高い児童には、タブレットを活用するなどの手立てを行います。
- 「図形」領域については、系統性を意識して、各学年で学習する図形の定義や公式の理解を促す工夫や習熟に時間をかけるなど、重点的に指導していきます。
- 文章問題では、分かっていることは何なのか、なにを聞かれているのかなど、設問に求められる条件や情報を見つける機会を積極的に設けます。そして、どのように解決の見通しを立てるのか、児童が自力で考えることができるよう指導していきます。
- 問題文を読み取る力をつけるため、問題をイメージ化する学習を日常の授業で大切にしていきます。

●理科《概要》

本校児童の平均正答率は全国値をやや上回る結果でした。全体的に知識・技能面については、全国値と比べてやや下回っていますが、思考・判断・表現の問題は、全国値を上回って

います。全国平均値をやや上回っている問題もありますが、記述式問題での無回答率が高い傾向にあります。

「エネルギー」を柱とする領域

- ・「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身についているかどうかをみる」「電気の回路のつくり方について、実験の方法を想像し、表現できるかどうかをみる」問題は、全国平均値を上回っています。
- ・「乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身についているかどうかをみる」問題は、全国平均値を下回っています。

「粒子」を柱とする領域

- ・「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識をもとに、概念的に理解しているかどうかをみる」問題は、全国平均値をやや下回っています。

「生命」を柱とする領域

- ・「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能がみについているかどうか」をみる問題
「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についているかどうかをみる」問題は、全国平均値を下回っています。

「地球」を柱とする領域

- ・「氷の結晶について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる」「水は温まると体積が増えることを根拠に、海面水位の上昇し他理由を予想し、表現することができるかどうかをみる」問題は、全国平均値を上回っています。

●理科における成果と今後の改善点について

- 実際に用具を操作する実験や観察などの経験を増やし、なぜそういう順番で操作するのか、なぜこの操作をしてはいけないかなど理由がわかるように授業の中で扱っていきます。
- 実験の予想や考察をしっかり書く時間を確保し、班や全体で自分の意見を発言できる機会を増やします。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学校生活・自分自身のことについて】

多くの質問において、肯定的な回答の割合が全国値を上回っています。しかし、「当てはまらない」と回答した割合も多く、今年度も二極化傾向という課題が残りました。特に

「学校に行くのは楽しい」質問において、「当てはまらない」との回答が多くいました。「いじめはどんな理由があってもいけない」質問においては、「当てはまらない」と回答した児童はいませんでした。「友達関係に満足している」は、肯定的な割合が高いですが、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「自分によいところがあると思いますか」という質問において、「どちらかという当てはまらない」と回答した児童の割合が多いことから、自己肯定感が低いことがわかりました。しかし、「人の役に立つ人間になりたい」質問は、肯定的な回答が100%でした。児童が頑張っていることに対し、教職員は認めていることを積極的に声をかけいくことがまだまだ充分ではないと真摯に受け止めています。ペア学年清掃や児童会行事など異学年交流を活発にし、自己有用感を向上させるため、さまざまな大人が頑張りに対し、声をかけて認めていくことを積極的に行っていきます。また、相談については担任だけでなく、どの職員にも相談できることを伝え、複数の大人が関わっていくように努めます。

全国値を上回っているもの

「将来の夢や目標を持っていますか」「人が困っているときは、進んで助けているか」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがありますか」

全国値とほぼ同じもの

「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

全国値を下回っているもの

「自分によいところがあると思いますか」「学校に行くのは楽しい」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できる」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」

【学習状況】

「PC・タブレットなどのICT機器を使って情報の収集、プレゼンテーションの作成ができる」と肯定的に回答した児童の割合が、全国の結果より高かったことに対し、「情報収集や、プレゼンテーションの作成の中で文章を作成したり、図・表・グラフ・思考ツールなどを使って情報を整理すること」についての肯定的割合は、全国値を下回っていました。図・表・グラフ・思考ツールをより多く使う経験をし、苦手意識を取り除く必要があります。使うことでどんな良いことがあるのか、使う前よりもわかりやすくなったのか児童自身で体感できる活動を工夫してまいります。

「友達との話し合い活動から考えを深めたり新たに気付いたりできるか」「授業で学んだことを次の学習や実生活に生かしているか」「先生は分かるまで教えてくれると思うか」

に対して、「どちらかといえば当てはまらない・当てはまらない」と答えた割合が全国より高く、話し合い活動や学習への意欲がやや低い傾向が感じられました。意見や感想を出し合ったり、深め合ったりする場をつくるように努めるとともに、学習内容を教えるだけでなく、実生活にどう生かすことができるのかを意識し、授業改善に取り組みます。また、放課後学習等に力を入れるなど、児童が質問しやすい時間や場を設定していきます。

【家庭生活・地域・社会について】

「朝食を毎日食べていますか」は肯定的な回答の割合が全国値とほぼ同じです。「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の肯定的な回答は、全国より低く、朝食の大切さについて教えるとともに、児童が自分の生活を振り返りながら（就寝、起床時刻を含め）、朝食の役割や効果を実感できるように授業の中で取り組んでまいります。

「地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」の質問では、全国と比べて、「あまりない・全くない」の割合が高い結果となりました。自分の住んでいる地域でどのような活動が行われており、どのような人たちが関わっているのか、まずは知る機会を作ってまいります。（登下校の見守り、伝統行事やお祭り、清掃活動などの地域行事）

【家庭学習について】

「平日、学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間」が、1時間以上の児童の割合は全国に比べて低く、「全くしない」児童の割合が、全国に比べて高くなっています。また、「学校の授業以外の平日の読書時間が1日30分以上」の児童の割合が全国に比べて下回っています。しかし、「読書は好きか」の肯定的割合は全国値より高く、また、「まったく読書をしない児童」の割合は少なく、普段から読書は好きでしているが、読書時間が短いことがわかりました。学習習慣を身につけるため、短時間でできる課題かつ児童がやりたいと思える課題の設定を工夫してまいります。

【教科の学習について】

国語・算数・理科とも数値に差異はありますが、「〇〇の勉強は好きですか」「〇〇の勉強は得意ですか」の肯定的な回答は全国値を下回っています。

「将来役に立つと思いますか」の肯定的回答は、国語・算数は全国値を上回っています。「理科の授業の内容はよくわかる」「理科の授業で、実験や観察をよく行う」「理科の実験でどのようなことが分かったのか考えている」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童が全国値を上回っていましたが、「将来、理科に関係する職業に就きたい」「理科の授業で学習したことが生活の中で活用できている」という質問に対しては下回っていました。理科で学習していることは、自分たちの生活に関わるものがたくさんあるので、

折にふれて話題を提供するとともに、教科書に載っている実験だけではなく、児童の疑問に関連する実験も実現可能な範囲で行っていくように授業改善を図ります。併せて、すべてを授業の中で扱うことは時間数的にも難しいため、自主学習を促すとともに、自分の調べたいことをプレゼンテーションにまとめて発表する活動も行い、授業で生活をつなげていけるように試みます。

3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、本校では、学ぶ意欲を高める授業づくりをさらに進めてまいります。本年度の研究テーマは、できる・わかる・楽しい授業、『算数の場での 伝え合う力をつける』とし、取り組みを進めています。日頃の授業において、「わかったことと、わからなかったことは何なのか」を理解することで、「きちんとわかる」につながり、長く残る本物の知識になるものだと思います。「できた・わかった」という体験を積み上げることで、学習の楽しさを学んでいけるよう、授業改善に取り組んでまいります。今後も自分の思いを言葉で表現できるように、語彙力をつけるための読書や辞書の活用を意識して取り入れてまいります。また、授業の中で他の児童と交流する場面を多く持ち、その中で自分の考えを伝えたり書いたりするなど、お互いに協力しながら課題を解決する、つまり「協同的な学び」を大切にしていきます。

学校は考えがちがう人たちが集まる小さな社会です。いろいろな考えがあるため、どうしても意見が合わないことも出てきます。しかし、話し合いを経て、仲間と一緒に何かを達成できた時の気持ちは格別です。まさに学校は「学びの宝庫」とも言えます。いろいろな出会いをチャンスととらえ、互いに認め合うことで、安心・安全でみんなが楽しい学校になることを繰り返し児童に伝え、どの子にとっても「安心・安全」な学校になるよう取り組んでまいります。この調査結果を踏まえ、教職員一同、より質の高い教育活動をめざし、精進してまいります。子どもの健やかな成長には、家庭・地域との協力が必要不可欠です。児童の自立と幅広い学習の機会をつくるため、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。